ふたかみNEWS
プチトマト

ゆったり、アトリエ
園芸セラピー　食の取り組み

緊急事態宣言が明けた６月25日、西浦の農林センターから頂いた玉ねぎとじゃがいもを使ったカレー作りに取り組みました。コロナ禍ということもあり、感染症対策をしっかりしました。久しぶりの食の取り組みと言うこともあり、みんな楽しそうに盛り上がりました。完成したオリジナルカレーに舌鼓を打っていました。（田岡）

社会福祉法人ふたかみ福祉会
〒583-0856 大阪府羽曳野市白鳥3-16-1 木村ビル４階　TEL 072-959-3221 FAX 072-957-1604
Email：futakami@kagayaku-inochi.com　https://kagayaku-inochi.com/company/
発行責任者：石本悦二　編集責任者：関口奈緒美

避難訓練

はびきの園では、年に２回避難訓練を行っています。コロナ禍の影響で一つの場所に集まって避難することや消防の方に来て頂くことが難しいなど配慮しなければいけない事はありましたが、無事に実施することが出来ました。当日は、少し雨の降る中ではありましたが、災害は天候に左右されて起こるものではないので、良い経験になりました。また秋にも実施を予定しており、その時は非常用すべり台なども使ってよりリアルな避難訓練が出来るように計画をしています。（辰己）

HB　夏の新商品

はぴマスク　￥５００

うちわ　￥７００

「はぴマスク」と「うちわ」の紹介です！
仲間のデザインマスクとうちわが発売されました。
デザインは一点物！
人気商品になってますので、是非手に入れて下さいね♪

■後援会入会及び更新の方々（敬称略）

【2021年度６月】

- 奥長君子　山出高平　・・・・・・以上６口
- 川井哲二　下原保　・・・・・・以上５口
- 山田恵　楠尾薫　西岡美紀　渡辺博子　・・・・・・以上４口
- 田中美希　・・・・・・以上３口
- 森恒子　石本悦二　・・・・・・以上２口
- 寺田恒　佐藤裕美　玉手沙恵子　南美智　原田豊治　村上彩子　小松佳子　石本祐子　石本弘子　谷口美喜子　・・・・・・以上１口

■ボランティア　・・・・であい 様／畑英作 様／細川直幸 様／松倉和代 様／垣内秀夫 様

■アルミ缶回収（６月分）　・・・・994 kg

ありがとうございました

◆2021年度ふたかみ福祉会後援会入会、更新のお願い◆
法人では用地を確保し、暮らしの場の充実をはかっていきます。
皆様の引き続き日中支援事業所や相談支援へのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。
【個人会費：１口3,000円　団体会費：１口10,000円】　郵便振替口座：００９４０－５－３２５８９４

広島・長崎から76年。平和の為に動き出すチャンスだ！

広島・長崎へ原爆が投下され、７６年が経った。２０１９年に長崎で行われた原水爆禁世界大会に参加してもう２年になる事にびっくりしている。今年も原水爆禁止２０２１年世界大会が開催される。コロナ対策の為、オンラインと草の根行動「平和の波」でつなぐ新しい時代にふさわしい大会の準備を進めているとのこと。

核兵器禁止条約は、２０２０年１０月に国連で発効に必要な50か国の批准に達し２０２１年１月に発効された。しかし、多くの核保有国や日本はこの条約には参加していない。私たちの国は、世界で唯一の被爆を経験した国なのに!!

世界中には、未だに内戦・紛争や弾圧、人種差別が行われている報道を日々目にする。国連で持続可能でより良い世界を目指す国際目標としてＳＤＧｓが採択された。その大きな特徴は『誰ひとり取り残さないことを目標とし、先進国と途上国が一丸となって達成すべき目標で構成されている。ＳＤＧｓの１７の目標の中には、平和と公正をすべての人にとある。平和と公正という言葉を先の核兵器禁止条約に当てはめるとそこに公正はないといえる。私が参加した長崎の原水禁でよく聞いた言葉に『核の抑止力』論がある。核兵器を持つことによって、攻撃がされないという武力による抑止論。ここにＳＤＧｓが目指す平和と公正があるのだろうか。

現在の日本は、アメリカの力の傘下にある為に、この条約を批准していない。核兵器による悲惨さを知り、その事を発信するべき国であると思う。被爆時の悲惨さを知る人たちの高齢化が進んでいる。出来るだけ早く核兵器のない世界を求め、その為に禁止条約に批准することを求めたい。コロナ禍というこれまで経験したことのない状況の中、普通の生活の尊さや医療の大切さを感じる中で、私たちは命の大切さを改めて認識することになった。だからこそ、平和の為に動き出すチャンスだと考える。（大伴）

津久井やまゆり事件から思うこと

津久井やまゆり園での事件から５年がたちました。５年と言う年月は短いようであって被害者家族にとってはとても長い年月だったと思います。

私は当時、社会人になったばかりでニュースを見た際にとても衝撃を受けました。同じ福祉を志す方が何故、事件を起こしたのか、理由は何だったのか日々、報道されるニュースを見続けました。分かってきたことは「障害者は必要ない」との言葉でした。障害者をもつ弟がいる私は存在を否定されていると言われているのも同然だと感じました。植松（死刑囚）が身勝手に事件を起こすのは間違っていると思うのと未だにその考えが変わっておらず謝罪の言葉もないことに非常に残念に思います。大変な仕事ではあるものの、利用者と一緒に成長したり、葛藤したりとその中にもやりがいがあると私は思います。これから福祉を志す人が二度とこのような事件を起こさないことを願うばかりです。（森本）

当時、私は大学生。ニュースで「相模原の障がい者施設で19人が殺害。26人が重軽傷を負った。」と情報が流れてきました。そのニュースを見た時は、すごく怖さを感じたことを今でも覚えています。植松（死刑囚）の動機は、「意思疎通のとれない障がい者は安楽死させるべき」や「重度・重複障がい者を養うには莫大なお金と時間が奪われる」など優性思想の内容でした。植松の刑が執行されても、被害者の家族、事件で一命を取り留めた方々の「傷」は、消えることはないと思います。また、当時の事を思い出しフラッシュバックで生活に支障をきたしている方もいると思います。人は誰しも「内なる優性思想」を秘めています。二度とこのような事件が起こらない世の中になることを願っています。（阪本）

「なぜ仲間と呼ぶのか」講師：田村和宏氏（立命館大学）

入職してから、利用されている方は一緒に働いている「仲間」だからと先輩や上司の方から教えられて、特に疑問に感じることもなく言い慣わしてきましたが、自分にとっては呼び方だけのものになってしまっていた部分が無きにしもあらずでした。今回の田村先生のお話は、多様な視点から「仲間」の呼び方に込められた意味を解きほぐしていくもので、改めてこの言葉の使い方について考えさせられることになりました。呼称表現の中で、利用者様という表現にはサービスの売り手と買い手の立ち位置が明確に現れており、公共の福祉実践の担い手が、それを肯定することについての疑義が示されました。

契約制度に基づいたサービスの提供においては福祉の公的責任性が薄まりやすく、生産性、効率性を重視した価値観が当然となると、仲間の隣並びにいる関係作りは一層やりにくくなるという危機感についても伝えられて、納得させられました。職員(支援者)だけが一方的に障害のある方に働きかけているのではなく、逆に相手からも働きかけられており、関係する人間同士の相互作用の中で諭し諭されて生きているからこその「仲間」だとする説明は自分の中で非常に腑に落ちるものがありました。障害の有る無しにかかわらず、子どもと親がお互いを育てあうように、所属集団の中で皆が同じ人間として成長していく仲間だと呼ぶのはこれ以上無く正鵠（せいこく）（要点）を得た素晴らしい表現だと思いました。（東）

はるクラブ・ヨガ女子会

支援センターはる（南河内北障害者就業・生活支援センター）に登録されていて、一般企業に勤めている方々の余暇活動として、はるクラブを行いました。緊急事態宣言を受け、様々な企画が延期や中止となっていたため、久しぶりの開催でした。

今回はカフェハピバールをお借りし、「ヨガ女子会」を行いました！くつろげる空間でのヨガは、心と身体をほぐす、癒しの時間になりました。

ヨガでじんわり汗をかいた後は、ハピバールのケーキセットを頂きました！皆さんの嬉しそうに写真を撮っている姿や、美味しそうに頬張っている姿が伺え、職員も思わず笑顔に。また日々の生活・お仕事など様々なお話を通して、参加されている仲間同士が仲を深めておられる姿も印象的でした。

最後には「次はランチに来たいね」などと話しておられ、笑顔の溢れる女子会になりました！

今後もコロナ禍でも楽しめる取り組みを職員一同、考えていきたいと思います！（大前）